

明薬大

創立記念日行事を開催

歴史振り返り発展誓う

明治薬科大学は5月17日、清瀬市の同大キャンパスで創立記念日行事として講演会、表彰授与式などを開催し、関係者約120人が出席した。創立記念日を大学の歴史と未来を結ぶ日と位置づけ、明薬大の変遷

を再確認しつつ、今後の発展を期する狙いで開催された。明薬大が創立記念の行事を行うのは、1930年以来95年ぶり。

講演した越前宏俊学長

は、創設者である恩田重信氏に言及。1901年に医



薬分業を帝國議

会に提案したも

の、薬剤師数

が足りないとの

理由で否決され

たため、自ら薬

剤師を養成しよ

うと発起して東

京薬学専門学校

の開設に踏み

切ったという。

この恩田氏の

行動が「薬学の

普及と社会に有用な薬剤師の養成により医薬分業を実現し、国民衛生の向上に貢献する」という建学の精神に生かされ、現在まで続いていると説明した。

これまで明薬大は入学定員も充足し、国家試験の合格率も低くないなど、順調

な発展を遂げてきたが、

18歳人口の急激な減少と

いう厳しい現実と直面し

ている。越前氏は「今ま

での優雅な平安の時代か

ら、今後は競争の戦国時

代に入る」と危機感を示

し、4年制時代の思考を

捨て、社会ニーズに対応

した研究室の再編などの改革

に取り組む必要があると訴

えた。